しれとこの森通信

2007 No.10

100平方メートル運動の森・トラスト

運動地で春を待つダケカンバ

この用紙は環境保全（資源活用）のため
再生紙を使用しています。

NATIONAL TRUST

知床で夢を育てませんか！

いのちあふれる森を次の世代へ

2007年2月。
しれとこ100平方メートル運動は、30周年を迎えました。

1977年、開拓跡地の買い取りと保全を目標に、小さな町から全国に向けた挑戦が開始されました。
それから20年後の1997年には、土地買い取りの目標金額に到達し、保全した土地に原生の森を復元していく、新たな歩みが始まりました。
そして、2005年。運動地を含む知床国立公園が、世界自然遺産に登録され、これまでの歩みが、一つの成果として大きな形となりました。

しかし、30年という時間は、知床の森を育むにはまだまだ短く、これからも長い年月が必要です。

原生の森の復元に向けた使命と、世界自然遺産としての責任を背負い、運動はこれからも地道な歩みを続けていきます。

平成18年度の主な森づくり

平成18年度は、岩尾別台地海側に位置する第4区画を中心に、防鹿柵の拡張や過去の作業地の現状調査、樹皮保護作業などを実施しました。

環境に合わせた森づくり手法を目指して

岩尾別台地の北側に位置する草原では、防風林の育成に向けた取り組みが進められています。オホーツク海と知床連山から吹きつける強風を緩め、台地上の森の育成を助けるのが大きな目的です。

またこの場所は、冬の強風で積雪が少ないため、シカによる踏みつけも激しく、植物の生育にとって最も厳しい環境の一つです。

知床連山と向かいあうように位置する防風林育成試験地。
見渡す限りの草原は、エゾシカの採食によって芝生状になっています。

この土地に適した作業手法を模索する取り組みは、平成14年から始まりました。6基の防風板を設置し、4,200本の針葉樹の苗を植え付けました。それから5年後、霜やエゾシカの影響などで多くの木々が枯死しましたが、防風板の周囲を中心に1483本が着実に生育していることを確認しました。年々少しずつ成長していく木々たちは、根や幹、枝などをこの厳しい環境に適した形へと変化させながら、上に伸びるための準備を行っているのです。この地に適した作業手法の確立に向け、今後も地道な取り組みを続けていきます。

防風板の効果で、積雪期には吹き溜まりがつくられます。植樹から6年が経過した今、防風板の周囲では、吹き溜まりによって守られた苗木たちを見ることができます。

平成18年度作業実績

- 樹皮保護本数：約　85本
- 広葉樹植樹本数：約1660本
- 針葉樹植樹本数：約　350本
- 防鹿柵で保護した面積：約3.12ha ※防鹿柵で新たに囲った面積を記載

その他の作業結果

●大規模防鹿柵の設置

知床連山から吹き降ろす風を受け止める役割を担っている良好な林が、近年、エゾシカの影響により衰退しつつあります。そのため、森林の早急な回復を目指し、シカの採食を防ぐ3ha規模の防鹿柵を設置しました。

ある程度育っている林を守る目的で防鹿柵を設置したのは、今回が初めての取り組みです。今後は、この柵内の木々が減少した箇所で植樹作業を行ったり、森の回復過程を調べる調査活動なども合わせて行っていきます。

※この大規模柵の設置のほか、資材置場の設置作業なども、イオン環境財団からの寄付に基づく事業として実施しました。

積雪期のシカの進入を防ぐには、3mもの高さの柵が必要です。

●河川環境の改善

世界遺産登録を機に、運動地周辺でも河川環境改善に向けた取り組みが進められています。平成18年度には、岩尾別川河口にある、ダムなどの遡上障壁が一部改良され、これまでよりも多数のサケ・マスが遡上できるようになりました。地元のさけます増殖事業協会と連携し、知床本来の河川環境の再生を目指していきます。

●イオン環境財団との共同植樹事業終了

5年計画で進めてきたイオン環境財団との共同植樹事業が、平成18年度で終了しました。今回は、475人の方が参加し、約1,500本の苗の植樹を行いました。

この5年間で、1,700人の方々に参加いただき、約8,500本もの木々を植え付けることができました。このほかにも、高額寄付をいただき、森づくりを推進させることができました。誠にありがとうございました。

平成18年度のしれとこの森交流事業の様子

第10回 森づくりワークキャンプ

森づくりワークキャンプは、今回で10回目を迎えました。11名の方が全国から集って、防鹿柵の拡張や資材小屋の建設、苗畑で休ませていた若い木々を山に戻すなど、様々な森づくり作業に汗を流しました。

今回、苗畑から山に戻した養生木は、今から7年前の第3回森づくりワークキャンプ（平成11年実施）で、森から一次的に避難させたものです。当時の樹高は3mほどでしたが、7年の歳月が経ち、5mにまで生長しました。第3回から毎年参加いただいている方には、一回り大きくなった木々が一段とたくましく見えたことでしょう。自分の手で再び森に還したこの作業は、きっとこの7年間の中でも最も思い出深い作業になったと思います。

しかし、森に戻された木にとっては、これからが試練の時です。強風や雪そしてシカなど、より厳しい自然条件の中で生きていかなければならないのです。

森づくりワークキャンプは、何度も参加している方にとっては「前回の森づくりの続き」であり、初めて参加する方にとっては「森づくりの始まり」です。皆さんとともに行っている森づくりを、是非体験しに来て下さい！

養生木の植え付け
大きな穴を掘り、一本一本丁寧に植えつけていきます。大勢の力が集まる森づくりワークキャンプだからこそできる作業です。

しっかりと根づくまでは木々を支える支柱も必要不可欠です。みなさんの力で防風林づくりが少しずつ形となって見え始めました。

第10回 しれとこ森の集い

参加者全員で行う記念植樹。秋の知床を、みなさんも感じに来ませんか？

第10回しれとこ森の集いには、斜里町民や全国の運動参加者90名が集まりました。秋晴れのなか、午前中は森の番人による運動地見学ツアーと子ども向けのネイチャーゲームの2コースに分かれ、午後は参加者全員で約350本のアカエゾマツの記念植樹を行いました。今年もまた参加した皆さん、ひとりひとりの想いとともに、知床の大地に新たな緑を根づかせることができました。

第27回 知床自然教室

今回の自然教室には地元斜里町を始め、全国から36人の子どもたちが集まりました。知床の自然に包まれた6日間の野外生活を通じて、子どもたちの心には、それぞれの「知床」が刻まれたことと思います。

期間中、シマフクロウが訪れる森の再生を目指した、『カエル池』周辺を防鹿柵で囲う作業を子どもたちが行いました。柱建てやフェンス張りなど、自分達の力で作った森づくりの柵。完成した柵を前に、子どもたちの顔は満足気な表情で溢れていました。次の自然教室では、柵の中ですくすくと育った草木たちがみんなを迎えてくれるでしょう。

みんなで力を合わせて柵づくり。知床の自然やその中で行われている森づくりを全身で感じることができます！

今年の交流事業に参加してみませんか？

第11回 森づくりワークキャンプ

スタッフと寝食を共にしながら、実際の森づくり作業に打ち込む6日間。12名限定、早いもの勝ちです！

日　程：平成19年11月1日～11月6日
参加費：18,000円（現地までの交通費は別途必要です）
対　象：18歳以上　　定　員：12名　　締め切り日：10月20日
お問い合わせ：知床自然センター　Tel：0152-24-2114
Fax：0152-24-2115
※ただし先着順で定員になり次第締め切ります。

第11回 しれとこ森の集い

午前中は森の番人の案内で森づくり作業地の見学。午後は記念植樹祭。どちらか一方のみの参加も可能です。是非ご参加下さい！

日　程：平成19年9月16日　　参加費：無料
お問い合わせ：斜里町役場自然保護係　Tel：0152-23-3131
Fax：0152-22-2040

第28回 知床自然教室

知床の原生林に抱かれた野外生活の1週間。ベースキャンプを作って海・山・川へ、アウトドアのエキスパート達が引率します！

日　程：平成19年7月30日～8月5日
参加費：35,000円（現地までの交通費は別途必要です）
対　象：小学4年生～高校3年生　　締め切り日：7月9日
お問い合わせ：知床自然センター　Tel：0152-24-2114
Fax：0152-24-2115

募集締切間近です！

運動地の公開に向けた取り組み

◆運動の長期的な目標の一つに、運動地を守り育てながら、その歴史や成果などを伝えていく仕組みづくりを行うことが掲げられています。その実現に向けて、平成17年度から実際に運動地を歩き、運動の普及活動を行うプログラムを本格的に開始しました。

◆平成18年度には、運動の趣旨に賛同する個人の方から教育機関、企業などの団体に対して運動の普及活動を実施しました。参加した方からは、知床で開拓があったこと、自然保護の取り組みが行われてきたことへの驚き、現場作業の大変さや運動の価値など、生の声をたくさん聞くことができました。その他にも、もっと多くの人が参加できる企画に変更したほうがよい、などの意見もいただきました。

しかし多くのニーズがある一方、運動地を公開することが森の荒廃につながっては本末転倒です。今後は、ルールづくりなど、詳細な検討が必要になってきます。

◆現在、知床半島全域においても、利用の適正化に向けた議論が行われています。その検討はエリアを区分しての詳細なものへと進んできており、知床半島の中央部地区に位置する運動地に対しては、地元の先進的な取り組みとして運動の精神に沿った利用を行うことが確認されています。

◆運動地では、地主として実行力を伴うルールづくりができるため、周辺エリアの利用適正化に対しても波及効果が期待されており、この検討が知床のよりよい未来に向けた大きな歩みになろうとしています。

森づくり入門ネイチャーウォーク

このプログラムでは、森づくりの担当者が現場を案内します。運動地を歩きながら、運動の歴史や開拓の話のほか、森づくり作業体験も行います。興味のある方は、知床自然センターへご連絡下さい。
HPでも情報を掲載しています。

知床自然センター　Tel:0152-24-2114　Fax:24-2115
100平方メートル運動の森体験　http://www.shiretoko.or.jp/mori/

※『100平方メートル運動の森・トラスト』の森づくりを支える体験プログラムは、運動の現地業務を担う知床財団が実施しております。お気軽に上記へお問い合わせ下さい。

100平方メートル運動30周年記念事業を開催しました

1977年にスタートしたしれとこ100平方メートル運動は、今年の2月で30年を迎えました。しれとこ100平方メートル運動がこれまでに知床の自然保護やナショナル・トラスト運動に果たしてきた役割を振り返り、これからの課題や方向性を示す記念事業を3月17日に、斜里町公民館ゆめホール知床で開催しました。

運動地エクスカーション

午前中には、運動地内を散策するエクスカーションが行われました。少しずつ育ち始めている森の様子やシカ対策の状況について森の番人による解説がありました。

特別講演　私としれとこ 100平方メートル運動

記念行事の冒頭に、元朝日新聞論説委員で日本エッセイストクラブ理事長の辰濃和男さんから、特別講演がありました。辰濃さんには朝日新聞のコラム「天声人語」で運動のことをご紹介いただき、その結果、全国から大きな反響がありました。講演では、運動が広く全国に拡大していったプロセスについてご説明いただきました。

シンポジウム第1部　小さなまちの大きな挑戦 100平方メートル運動の30年

100平方メートル運動の草創期から関わってきたメンバーによって、運動開始のきっかけや、知床伐採問題や世界自然遺産登録の経緯などについて意見が交わされました。若い世代の出席者にとっては、運動の歴史を知る貴重な機会となりました。

シンポジウム第2部　100平方メートル運動の未来に向けて

第2部は、100平方メートル運動のこれからを担う世代からの発表が中心です。まず、現場で森林再生がどのように進んでいるか、急増するシカ対策や生物相復元の課題などが説明されました。また、高校での授業の一環として森林再生ボランティアを実施した成果や、知床自然教室に小学生時代から参加し、現在はリーダーや指導員として活動しているスタッフからの報告がありました。シンポジウムの最後には、自然教室の現役参加者から、「知床や地球の自然をこれからも守っていきたい」との力強い言葉が聞かれました。

写真展　知床開拓スピリット－岩尾別・幌別の村に生きた人々

記念行事の一環として、公民館ゆめホール知床のロビーで3月10日から17日まで、100平方メートル運動地の開拓の歴史をたどる写真展が開催されました。写真家　栂嶺レイさんは、100平方メートル運動とともに開拓の歴史保全も考えてほしいとの思いから、これらの写真を撮影されたそうです。

今回の行事は、運動にとって大きな転換点となりました。100年、200年先に豊かな森を育てるためには、運動を担う若い世代にいかにバトンを渡してゆくかが重要だからです。町民や100平方メートル運動の関東支部、関西支部などから約220名もの方にご出席いただきました。ご多忙の中お越しいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。

エゾシカ対策の方針転換について

～ 運動地でのシカ捕獲の可能性を検討 ～

「100平方メートル運動の森・トラスト」による森づくり作業を開始するにあたって、私たちは様々な目標や方針を定めました。そのひとつが、「当面の20年間は、シカを人為的に減らすことは考えずに森づくりを進めよう」というものです。1997年当時、運動地のエゾシカ密度はすでに過去最高レベルで、シカが好む広葉樹には大きな影響が出ていましたが、まずは「シカを排除しない森づくり」にチャレンジしたわけです。

しかし現実は大変厳しいものでした。防鹿柵やネットなどによる樹木保護を地道に進めても、それをはるかに上回る勢いで運動地の森林が衰退していきます。次世代を担う広葉樹の苗は、限られた防鹿柵の中でしか生存できない状況であり、柵の外ではすべてシカに食べられてしまいます。森づくり開始から10年を経た今、「このままあと10年、現状のシカの密度を放置できない」という危機感が高まっています。

また、シカ問題は知床半島全体にとっても深刻です。知床岬をはじめとするシカの越冬適地では特にその影響が著しく、少なくとも過去100年間で最も厳しい状況であることが科学的な調査データから明らかになっています。

そんな中、知床の世界自然遺産登録を契機に、「知床半島エゾシカ保護管理計画」が環境省によって定められ、今年度から同計画に基づくシカの管理や調査が開始されることとなりました。その管理手法のひとつとして「シカの個体数調整」が明確に位置づけられています。シカの影響が特に著しい４ヶ所では、もし条件が整えば、今後５年以内に実験的な捕獲を実施することとしています。100平方メートル運動地を含む幌別・岩尾別地区は、この４候補地の１つに挙げられています。

これらの動きを受けて、「運動地のシカに関する中期方針も転換すべき時期である」という提案が森林再生専門委員会議の中でまとめられました。「植生への著しい影響が避けられない場合は、シカの個体数調整も含めて検討する」というものです。知床岬などでのシカ対策の方向性を踏まえながら、今後、運動地内についてもシカ捕獲の可能性を具体的に検討する予定です。

年	知床におけるエゾシカの生息動向	知床半島全体のエゾシカ対策の検討	100平方メートル運動地でのエゾシカ対策の検討
1970年代	明治時代の大雪などの影響で一時姿を消していたエゾシカが、再び知床地域に定着する。		1977年、しれとこ100平方メートル運動がスタート。開拓跡地の買い上げと植樹を開始。
1980年代	徐々に個体数が回復。シカが好む樹木の樹皮食いが目立ち始める。	1982年、半島中央部以先が国指定鳥獣保護区に設定される。以降この地域でのシカの捕獲は禁止。	植樹木のうち、広葉樹苗の生育が不良。シカによる影響が現れ始める。
1990年代前半	個体数が爆発的に増加。シカが好む樹木の枯死やササ丈の低下、草原植生の変化などが加速。		
1997			「100平方メートル運動の森・トラスト」による森林復元の検討開始。運動としては「人為的なエゾシカの密度調整は行わない」という20年間の中期方針を掲げる。
1998	知床岬地区のエゾシカ越冬数が過去最大の592頭となり、シカが好まないミズナラの大径木にまで樹皮食いが発生。		第一次回帰作業開始。防鹿柵や樹皮保護ネットなどによるエゾシカ対策を中心に森づくりを進める。運動地のシカ密度は80年代後半の約10倍に達する。
1999	シカの高密度化による自然死亡（餓死）が発生。しかしメスジカがほとんど死亡しないため、その後数年で個体数は回復。		
2000			運動地周辺でも本来シカが好まないミズナラに樹皮食いが確認されるようになる。エゾシカ対策を集中的に議論する「シカ対策ワーキング会議」を立ち上げて検討を開始。
2002			シカ対策ワーキング会議での検討の結果、当面は防鹿柵などによる対策を継続して森づくりを進めるが、①シカに関する中期方針は５年ごとに再確認を行うこと、②運動地のシカ管理は知床全体の管理計画の中で検討すべきこと、などを確認。
2003	知床岬地区のエゾシカ越冬数が、98年を上回る626頭に。		第二次回帰作業開始。
2004		知床世界自然遺産候補地科学委員会の中にエゾシカワーキンググループが設置され、知床半島のエゾシカ保護管理計画の検討を開始。	シカの採食圧依然強し。
2005	知床岬地区のシカ自然死数は過去最高の145頭。	運動地を含む71,000haが世界自然遺産に登録される。	森林再生専門委員会議のなかで、シカに関する中期方針の見直しの必要性について議論。
2006		知床半島エゾシカ保護管理計画策定。「シカの個体数調整」も管理手法の１つに位置づけられる。	森林再生専門委員会議が、シカに関する中期方針の見直しを提案。「植生への著しい影響が避けられない場合は、個体数調整も含めて検討する」とした。
2007		知床半島エゾシカ保護管理計画がスタート。シカの個体数調整（密度操作実験）の実施場所や捕獲手法を検討中。	森林再生専門委員会議からの提案を受けて、シカに関する中期方針の見直しについて最終決定（予定）。

運動地のシカの扱いに関する中期方針（1998-2017年）

現行

急増したエゾシカへの対応には、生態系の調整能力を活用し人為的な調整は行わない。

変更案

急増したエゾシカへの対応には、生態系の調整能力の活用を基本とするが、植生への著しい影響が避けられない場合は、個体数調整も含めて検討する。

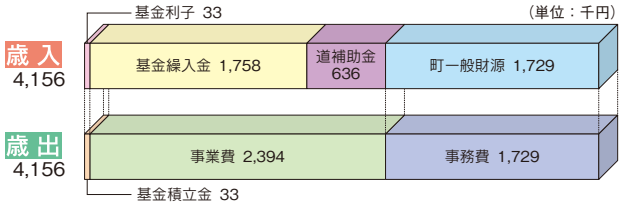
平成18年度決算

■保全管理事業

事業費は、運動地の下刈りなどで約239万円を支出しました。事務費は主に「しれとこの森通信」の印刷・発行費用で約173万円です。

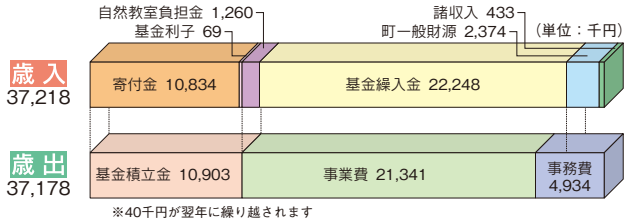
保全された土地の現状　（単位：ha）

運動地面積 861.90	保全済み地域	849.98
	（寄付金による取得地	459.26）
	（既存町有地	390.72）
	今後の取得対象地	11.92



■森林再生事業

森林再生のための事業費として、総額約2,134万円を支出しました。事業費の内訳としては、運動地での森林再生事業を知床財団に1,142万円で委託して実施したほか、台地への強風防除のための大型のシカ侵入防止柵設置やシカ柵修繕等に992万円を支出しました。また、主な事務費はパンフレット等の印刷や消耗品類、受付事務員の賃金など約494万円です。



※40千円が翌年に繰り越されます

■森林保全基金の状況

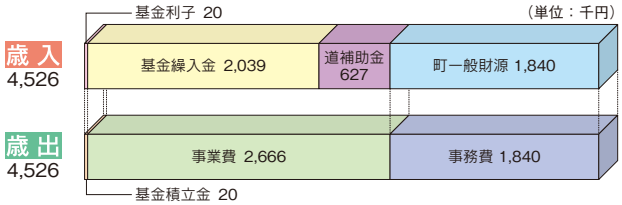
国立公園内森林保全基金の状況　（単位：千円）（平成19年6月1日現在）

国立公園内森林保全基金									
土地保全管理資金（保全事業のための資金）					森林再生等資金（再生事業のための資金）				
		H17年以前	H18年	計			H17年以前	H18年	計
歳入	寄付金	522,534	0	522,534	歳入	寄付金	167,131	10,834	177,965
	利息	67,940	33	67,973		利息	440	70	510
	計	590,474	33	590,507		計	167,571	10,904	178,475
歳出	土地取得	325,113	0	325,113	歳出	事業費	102,571	21,341	123,912
	植林等事業	128,745	1,758	130,503		事務費	25,196	907	26,103
	事務費	81,543	0	81,543					
	計	535,401	1,758	537,159		計	127,767	22,248	150,015
残高		55,073	△1,725	53,348	残高		39,804	△11,344	28,460

平成19年度予算

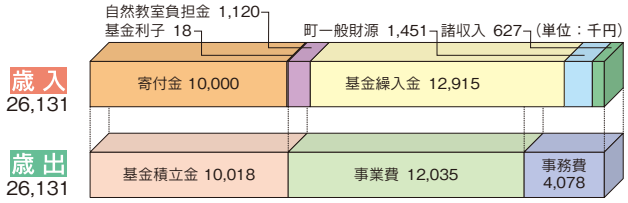
■保全管理事業

事業費として、植樹後10年以内の地域や記念植樹地での下刈りに、約267万円を支出予定です。事務費184万円は主に「しれとこの森通信」の印刷・発行費用に支出します。



■森林再生事業

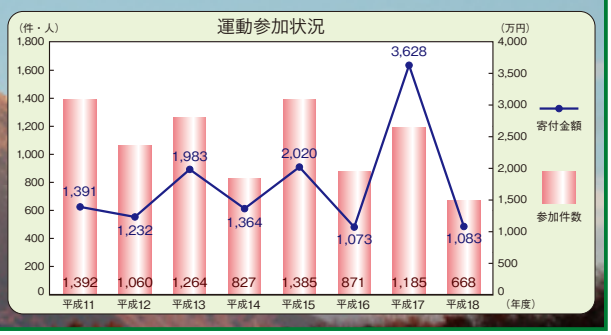
事業費は、森林再生の現地作業や森の交流事業の企画運営などに1,100万円を支出するほか、シカ侵入防止柵の修繕費等として約104万円を支出予定です。事務費は、事務員賃金（156万円）やパンフレット類の印刷費用（82万円）など約408万円です。



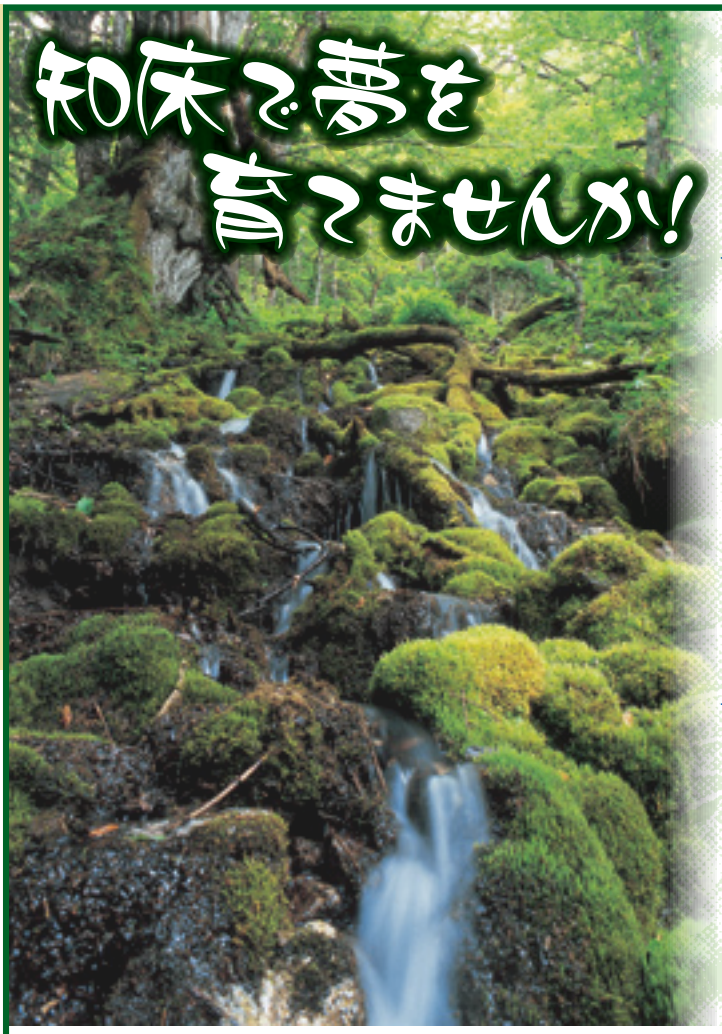
NATIONAL TRUST The Shiretoko100㎡ Movement　**100平方メートル運動の森・トラスト**

たくさんの寄付をありがとうございました

平成18年度にも、多くの方から100平方メートル運動の森・トラストにご寄付をいただきました。会社の創立30周年を記念して200万円の高額のご寄付をいただきました。お孫さんが誕生された記念に、「知床の大地のように大きくなってほしい」というメッセージとともにご寄付をいただいたこともあります。また、町内で100平方メートル運動に長く貢献された方からは、町外に転出されるにあたって100万円の高額寄付をいただきました。皆様からのご厚意に、心より御礼申し上げます。



平成19年(2007)6月15日発行　発行:斜里町役場環境保全課自然保護係　〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地　TEL:0152-23-3131(内線125) FAX:0152-22-2040



知床で夢を育てませんか!

NATIONAL TRUST
The Shiretoko
100m² Movement

数百年後の豊かな知床の森と生物相の復元に向けた取り組みは、皆様からの寄付金によって支えられています。引き続き暖かいご支援をよろしくお願いします。

●運動に参加するには？

申込書を郵送またはファックスにてお送りください。ホームページからの申し込みもできます。
寄付金は**1口5,000円**で、何口でもけっこうです。郵便振替か現金書留で斜里町役場までお送り下さい。

●郵便振替の場合

口座番号：02740−8−10555
加入者名：斜里町役場

●現金書留の場合

申込書も同封の上、斜里町役場自然保護係へ直接郵送願います。

●運動に参加すると!

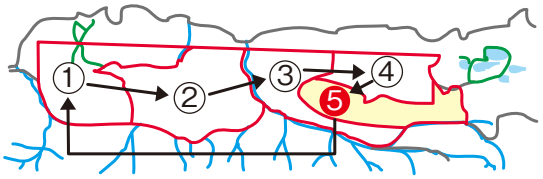
- 将来の知床の森をイメージした募金証書を発行いたします。
- ご寄付いただいた年の活動状況を、翌年に「しれとこの森通信」でお知らせいたします。
- 運動地の森を通じて交流し、森づくりにたずさわる機会（しれとこの森交流事業）を提供します。
- 5年周期の森づくり計画が一巡する毎に報告書をお届けします。次回は平成20年にお送りします。

平成19年度の主な森づくり(予定)

本年度は、第2次回帰作業の最終年にあたり、岩尾別台地中央部に位置する第五区画を中心に作業を行います。また、これまでの10年間の作業の振り返りや第3次回帰作業方針の検討も行います。

- 運動地に吹き付ける風をさえぎる目的で、平成18年度に作られた3haの防鹿柵内において、森林の回復を進めるための植樹作業を実施します。
- 運動地に設置した防鹿柵の中では、苗畑で育てた木々を使っての多様な森づくりを進めています。しかし、積雪状況によっては柵の中にシカが進入できる箇所を確認したため、緊急度が高い場所を中心に、防鹿柵のかさ上げ作業を行います。
- シカの樹皮食いから守るため、平成11年に山から苗畑へと緊急的に非難させていた若い木々を、防風林の育成が求められている箇所に植えつける作業を実施します。
- 森づくり作業や交流事業などで重要なエリアとなっているポンホロ地区へ行くためには、小さな橋を渡る必要があります。近年、この橋の老朽化が著しいため、平成19年度には橋の架け替え作業を行います。

作業区画地図



平成19年度は図の⑤を中心に作業を行います。

お知らせ

●町長の退任と新町長の紹介

これまで5期20年にわたって町政を担った午来　昌町長と、100平方メートル運動のスタート時から、担当として深く関わってきた関根郁雄副町長が本年4月末日をもって退職しました。5月1日からは、本年1月まで町議会議長であった村田 均が町長として100平方メートル運動の推進に関わります。どうぞよろしくお願いします。（後任の副町長は6月下旬に選任される予定です）

●森林再生専門委員が交替しました

100平方メートル運動の森・トラストの推進にご尽力をいただいた森林再生専門委員会議の石城謙吉座長、梶光一委員が昨年度で退任されました。新しい座長には、新運動開始当初からの専門委員で、長期にわたって知床での調査研究活動を精力的に実施されていた石川幸男委員が就任しました。また、新しい委員として、植物生態学が専門の北海道大学苫小牧研究林の日浦勉林長と、エゾシカの保護管理が専門の北海道環境科学研究センター自然環境保全科の宇野裕之科長が委員として就任しました。どうぞよろしくお願いします。

ネットでつながる
しれとこ夢の森
http://www.town.shari.hokkaido.jp/100m2/
運動地におけるニュースや自然情報などを更新しています。HPから運動参加申し込みもできます。

お申込み・お問い合せ先
〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地　斜里町役場自然保護係
TEL 0152-23-3131(内線125)　FAX 0152-22-2040

編集（財）知床財団　　**印刷**（有）斜里印刷